

令和4年度1学期四小教育活動自己評価について(1学期)

令和4年10月

令和4年度1学期の教育活動についての教員の自己評価です。

「満足できる」・・・4 「おおむね満足できる」・・・3
 「あまり十分ではない」・・・2 「努力を要する」・・・1 の4段階で評価しました。
 3ポイント以上であれば、「概ね良好」、3ポイント未満であれば「改善の必要あり」と判断しました。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方法	達成値 (数字)
人権尊重の 精神の育成	{全児童の命を預かる}という目標を教職員一人ひとりに意識させる。また、児童一人ひとりの大切さを強く自覚する。教職員自らの言動が児童の人権を侵害することのないように常に意識する。	職員全体が「体罰」を含めた暴力・暴言に對しての問題意識をもつ。そして、学校内外で児童が安心できる環境を作る。	人権について日常的に指導することや配慮することをOJTによる教職員の研修で積み重ねていく。また、「報告・連絡・相談」の徹底を図る。	3.44
		児童の人権を確保するために、日ごろから児童観察、児童理解に努める。気になる言動や体調不良などを訴える場合は、保護者との連携を図る。また、いじめ防止にむけた活動を組織的に行う。	日常の児童観察と教員間での「報告・連絡・相談」の徹底を図る。児童及び保護者アンケートの実施や児童との個人面談や「ふれあいアンケート」の実施等により、いじめなどの未然防止、早期発見を図る。	3.44
授業力向上・ 学力向上の推進	主体的に学習に取り組める児童を育成する。また、教員が課題解決学習型の授業形態の研究を行う。	基礎・基本の学力の定着を図り、調査等を分析・活用し、基礎学力の定着を図る。	漢字・計算等の学力の定着を図る。そのために、書き取りやドリル等の反復学習を繰り返していく。	3.3
		教員が課題解決型の学習の研究を積み重ねることにより、児童が自ら学習する授業を展開する。	年間を通して、各教科で児童同士のかかわり合いのある授業を展開していく。国語科では、外部講師を招聘して研究授業等校内研究を積み重ねていく。	3.44
地域人材・ 外部人材 活用の充実	地域との連携を図り「地域の中の学校」というスタンスを確立する	コミュニティスクール1年目にあたり、保護者、地域の人材を一層積極的に活用する。NPO法人、社会福祉協議会や近隣大学教員、留学生との連携を図る。	年間を通して、地域人材を招聘した授業や学生ボランティアを活用した効率的な教育活動を展開する。	3.24
		児童が地域行事に参加し、身近な地域を大切にする態度や能力を育成する。学校・保護者・地域が連携して、関りを深め、規範意識を高める姿勢を持たせる。	地域行事や子ども祭り・地域スポーツ行事等に積極的に参加するよう促す。楽しい四や地域ボランティアの方々との関わりを深める。児童が進んで規範意識を醸成し高められるよう学級会活動を行う。また、あいさつ運動を展開する。	2.84
特色ある学校づくり	体力向上を図る	数年来の体力調査から児童の体力状況を分析し、日頃の体育学習の指導方法を高める。そのために、外遊びの習慣化を図るとともに、短縄や長縄を活用しての全身運動、リトミック等での体幹の強化や持久力の育成を図る。	体力面の課題である持久力、瞬発力、握力と遠投力を付けるため、工夫した実践に取り組む。また、朝「外遊びの時間」や毎日の休み時間に進んで外遊びをする。さらに、短縄週間、長縄チャレンジや持久走週間を取り入れる。	3.04
	環境教育への意識と 行動力の向上を図る	市が推進する「ハチドリ・プロジェクト」を推進する。児童に学校という生活空間における環境整備の経験を通して、資源循環を考えさせる。 ・身近な自然環境に対する理解を深める教育活動を通して、保全、維持の意識と行動を高める。	日常の美化清掃活動を通して、「ゴミステーション」による分別活動とゴミ削減の推進。 近隣の三楽、貫井の森、野川、滄浪泉園の自然環境を教育活動に活かし、保全と維持の意識と行動力向上へと結び付ける。	3.24
	児童が異年齢集団等の豊かなかかわり合いを持ち、読書に親しむ習慣を育成する。	異年齢集団、学級活動等による豊かな関わり合いを醸成する。	縦割り班活動を充実させるとともに、児童の考えを取り入れた学級活動を実践する。	3.24
		毎週の「読書タイム」活動を中心に読書活動を促進し、読書に親しむ心を育成する。活字に対する興味・関心を高める。	読書週間、読み聞かせ、読書ボランティアの活用等を通して、読書への意欲を高める。新聞等を活用し、日頃から時事問題に興味・関心を高める。	3.32